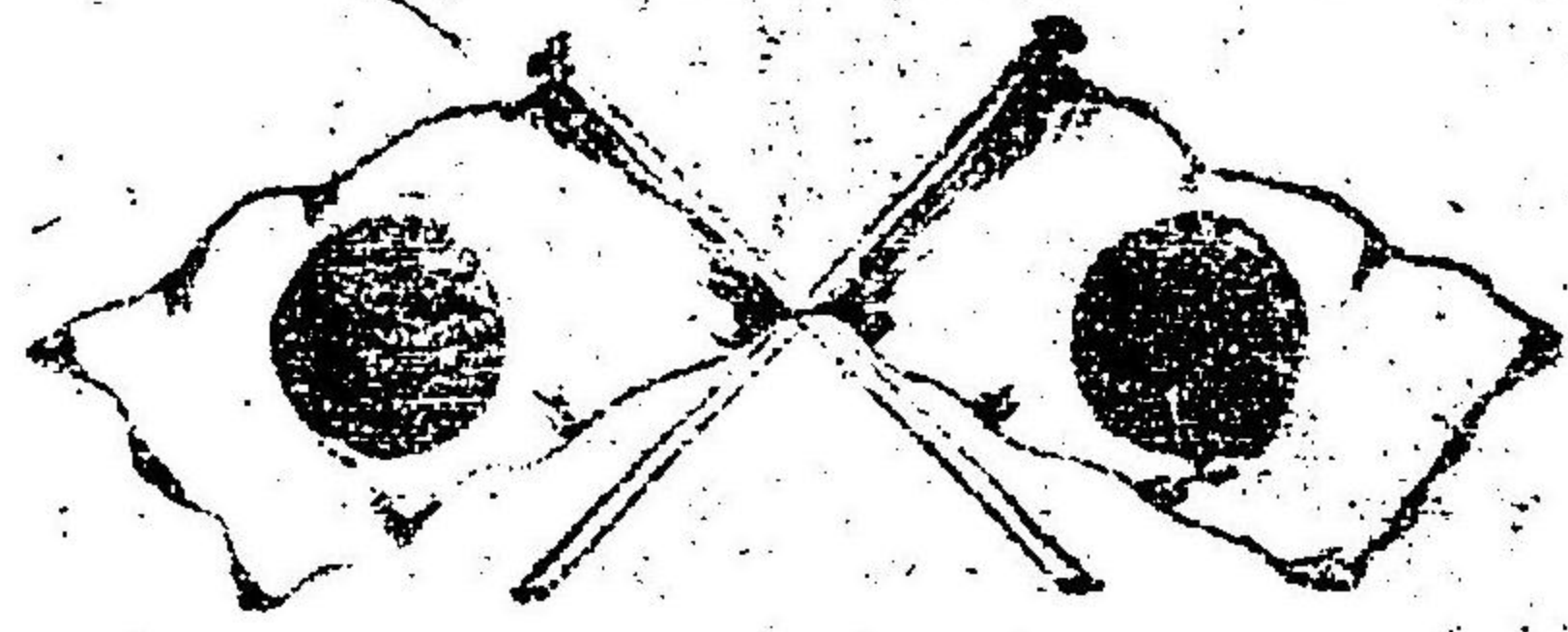


164  
310



大婚廿五年の祝言

(非賣品)

明治廿五年十一月廿六日印刷  
同 年十一月廿六日出版

著 者 谷 口 政 徳

東京本郷區追分町十三番地

發行者 辻 岡 文 助

東京日本橋區横山町三丁目  
貳番地

印刷者 松 本 秋 齋

東京本郷區湯島壹丁目十三  
番地

發兌元 金 松 堂

東京日本橋區横山町三丁目  
貳番地



言の葉は掛たりて  
唯畏

允文允武至仁至愛なる吾

命上天皇陛下御諱ハ睦仁と申奉りて先帝

孝明天皇の御子の皇子よ坐さくて人皇第一代

神武天皇より第六十八世一百二十有二代の大君よ

あたらせ給ひぬ

御降誕ハ嘉永五年壬子九月二十二日(太陽曆ニ改メラレテハ十一月三日即チ天長節

ナ)儲君と爲らせ給ひハ万延元年庚申六月十日よ

して親王よ立たせ給ひハ同年九月二十八日よ

せり

御即位は慶應三年丁卯正月九日よして此時御聖壽

十有六歳よて坐さく御踐祚の禮は同四年戊辰八

月二十七日に行はせ給ひき

御聖算は今年四十有三歳よ渡らせ給ふ

皇后陛下御名は藤原美子と申奉りて御父君は左

大臣一條忠香と申奉る





御生誕ハ嘉永三年庚戌四月十七日(大陽曆ニ改メラレテハ五月廿八日即チ地久節ナリ)

明治元年十二月二十八日女御とからせ給ひ即日皇

后よ立たせ給ひき

御年は今年四十有五歳に渡らせ給ひぬ

抑明治元年十二月二十八日大婚の禮を行はせ給ひ

より拇指をり奉れば今明治二十七年ハそれより

満二十有五年に當らせらるゝを以て今日も宮中

よてハ大祝典を擧げ行はせ給ふよなん吾人四千万

の臣子の國の大父母君と坐志坐す大君の御結婚遊

ばされより茲に二十有五年の星霜を一日のごと

経まゝと畏き嗚呼朝日の登るが如く立榮ぬまゝて

吾等四千万人ハ皆朕が赤子とおぼし召されて夜と

なく晝となく聖慮よかけさせ給ふになん嗚呼今日

こそハ吾人臣子たる者は其分に應じて誠意を表し

敬意を盡して祝ひ奉らざる可らず

さて此御祝典よつきて日本國中の八十歳以上の者



へは養老の爲よと雲井高き御仁惠の露の潤ひて若  
干の黄金を御下志賜ハるよくなれば其御仁惠に浴  
する老人等は如何よ尊き如何よ有り難きことの限  
りならずや此大婚の御祝典より今二十五年を経給  
ひては又更よ大祝典に當らせ給ふとかや實よ此聖  
代よ遇へる吾等四千万の同胞ハ  
兩陛下の聖壽相並びまゝして千代万代も經まさんこ  
とを赤心と籠めて  
天神地祇よ御祈り申し奉ら

でやハあるべき

故れこゝをもて當本部よ於て此如本日謹而大婚の  
祝祭を舉行奉仕る所以なり

いでや四千萬の同胞兄弟姉妹よ今明治二十有七年  
の三月九日といふ日は如何よ尊き如何にめでたき  
日ならずやあをゆめな忘れそゆめな忘れそ  
君か代は千代よ八千代よき、れ石の  
いはほとなりてこけのむすまで



21-12

諸へや諸共よ舞へや諸共に四千万の同胞よ

天皇陛下萬萬歲

陛下萬萬歲

二十有七年三月吉辰 神道金光教會本部謹誌

昭和二十七年三月五日印刷

本會本部發行

岡山縣備中國境口郡吉備村大字大倉七拾三番邸

神道金光教會長

中 教 正 金 光 大 陣

岡山縣岡山市大字平野町三十四番邸

西 尾 大 吉

岡山縣岡山市大字東町八番邸

西 尾 大 吉

岡山縣岡山市大字東町八番邸

西 尾 大 吉



7  
4  
3



華族論 上 舟橋 遜道

東宮殿下 谷口 政徳

大婚廿五年の祝言 金光大陣

国立国会図書館

006230-000-9

特17-163

大婚廿五年の祝言

金光 大陣/著

M27

ACJ-0332



特  
1